

再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	道路事業（道路改良事業）				
地区名	主要地方道弥富名古屋（又八工区）				
事業箇所	愛知県弥富市鎌倉町～又八町				
事業のあらまし	<p>主要地方道弥富名古屋線は、弥富市鯛浦町から名古屋市昭和区に至る延長約 20km の路線であり、海部・津島地域を東西に結ぶ主要幹線道路である。また、第二次緊急輸送道路として位置づけられ、防災上重要な路線でもある。</p> <p>当該事業区間の周辺では、弥富市内の国道 1 号や一般県道子宝愛西線で慢性的に渋滞が発生しており、物流や人の交流などの点で地域の課題となっている。</p> <p>このため、「人の交流を支え地域を活性化する基盤整備」、「地震・津波対策の強化」を主な目的として、海部津島地域における交通の円滑化と周辺の渋滞を緩和するとともに、大規模災害時等に高規格道路等へのアクセス性を向上させて、円滑な救援・復旧活動を行うため、主要地方道弥富名古屋線のバイパス整備を実施するものである。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>(1) 人と交流を支え地域を活性化する基盤整備</p> <p>(2) 地震・津波対策の強化</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>				
計画変更の推移		事業採択時 (H23)	再評価時 (H28)	変動要因の分析	
	事業期間	平成 23 年度～32 年度	平成 23 年度～32 年度		
	事業費（億円）	14.9	14.9		
	経費内訳	工事費	11.5	11.5	
		用補費	0.9	0.9	
その他		2.5	2.5		
事業内容	バイパス整備 延長 L=0.50km 幅員 W=16m 2/2 車線	バイパス整備 延長 L=0.50km 幅員 W=16m 2/2 車線			
II 評価					
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事業採択時の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業区間と並行する国道 1 号は交通量が 21,164 台/日、混雑度が 1.51（H22 道路交通センサス結果）と非常に混雑しており、新たなバイパス整備による混雑緩和が必要であった。</li> </ul> <p>【再評価時の状況】</p> <p>①人の交流を支え地域を活性化する基盤整備（渋滞緩和）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業区間と並行する国道 1 号は依然として非常に混雑している。</li> </ul> <p>②地震・津波対策の強化（広域的な防災機能の向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要地方道弥富名古屋線は第二次緊急輸送道路に指定されている。</li> </ul> <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道 1 号の混雑度は依然として高い状況にあり、混雑緩和が必要である。</li> <li>・第二次緊急輸送道路に指定されている。</li> </ul>			
	判定	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <p>A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平行する国道 1 号の渋滞状況などについて事業着手時の必要性和大きな変化はなく、事業の必要性は依然として高い状況であるため。</li> </ul>			

②事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	【事業計画及び実績】										
	工種区分		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
		調査・設計	←→									
		用地補償	←→									
	事業費(億円)	計画						10.3				
		実績	4.6									
	【進捗率】											
			これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況						
			計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	進捗率(%)【②÷③】					
	延長(km)		—	0.0	—	0.5	0%					
事業費(億円)		—	4.6	—	14.9	31%						
工事費		—	2.1	—	11.5	18%						
用補費		—	1.3	—	1.3	100%						
その他		—	1.2	—	2.1	57%						
※用地進捗率(面積ベース)は、100%												
2) 未着手又は長期化の理由	・完了予定年度に変更なし。											
3) 今後の事業進捗の見込み	【阻害要因】 ・地元自治体より早期整備が要望されており、大きな阻害要因はない。 【今後の見込み】 ・平成32年度までに整備が完了する予定である。											
判定	A	A：事業は順調であり、計画通り確実な完成が見込まれる。 B：次のいずれか(該当する項目に「○印」を付ける) ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。										
		【理由】 ・平成32年度までに整備が完了する予定である。										
Ⅲ 対応方針												
継続	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。											

#### IV 再評価実施の有無と主な評価内容

■対象（事業完了後5年目） 対象外

【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】

—

【主な評価内容】

・交通量（全車、大型車）、旅行速度、混雑度